

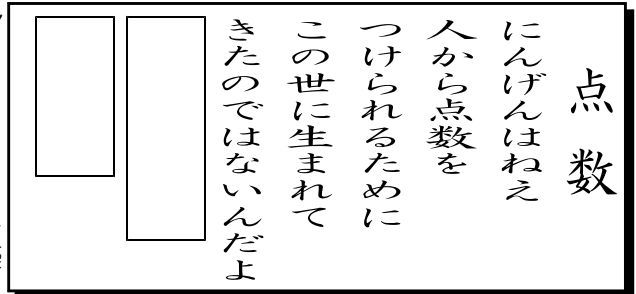


にんげんがさき、点数は後

もう何年も前のことになります。下のような相田みつをさんの詩が載っているポスターを見かけました。もちろん にも言葉が入った形で紹介されていましたが、そこに入る言葉を予想してみてください・・・。

正解は、「にんげんがさき、点数は後」です。さらに、ポスターには次のような文章も書かれていました。

『まずは一人の人間。「人間って？」という原点をもう一度考え直してみませんか？自分を見つめ直し、周囲にも目を向けることで、非行や犯罪のない明るい社会を築けるはずです』。



期末テストが終わり、返されるテストの点数を見て、喜んだり悲しんだりする光景が見られます。点数や順位などの数字が人間の価値を決定するものではありませんが、目標に向かってがんばった努力の点数としては大いに価値があると思います。

また、先日「人はいつから人になるのだろうか？」という問いかけもありました。いのちの先生講演会で講師の高橋美佐子（高松赤十字病院看護師長）さんからの問いかけでした。母親の胎内に命を宿したとき、この世に誕生したとき、それとも・・・。さらに、講演会では、「自分はどう生きるか、どんな親になるかを普段から考えておきましょう。それは新しい命を引き受け、性行為感染症を引き受ける覚悟をいつするかということでもあるのです」という提言や、「命に優劣はない」「命はリセットできない」など、心に響く言葉もたくさんいただきました。（生徒の感想の一部を裏面に掲載しています）

まもなく夏休み。忙しさから開放され、自由な時間が増えます。そんなときこそ、自分を見つめ直し、周囲にも目を向け、明るい社会を築いていく一員として、しっかりと人間を鍛えていきたいものです。

詫間中学校のイメージは？

7月6日は、1896年にクーベルタン男爵によって、アテネで近代オリンピックが開催された日です。「オリンピックは、勝つことではなく、参加することに意義がある」という有名な言葉がありますが、これは「負けてもいい」という意味ではなく、政治や国家権力に左右されることなく、純粋にスポーツを楽しみ、参加した仲間と競い合い、楽しみたいという精神に価値があるということの意味している言葉です。

ところで、アメリカ、中国、韓国、北朝鮮など、いろいろな国の名前を聞くと、それぞれの国に対して、カッコいい選手がいる国だ、貧しい国だ、歴史があり文化程度の高い国だなど、様々なイメージを思い浮かべると思います。それらのイメージは、スポーツニュースを見たり、政治家同士の話し合いを見たり、ドキュメンタリー番組でその国の生活の様子を見たりして作られるものだと思います。つまり、その国の人々の行いや発言、態度などが、その国のイメージとして受け止められているのです。

さて、詫間中学校のイメージは、どのように受け止められているのでしょうか？みなさんが、様々な国に対して持っているイメージも、詫間中学校というイメージも、同じような作用で作られています。

スポーツの試合をするということは、詫間中学校の選手として、どのような発言や振る舞いをするのかが見られており、それが詫間中学校のイメージとなるのです。みなさん一人一人が、その役割を担っています。ですから、良いイメージを持ってもらうためには、元気なあいさつができるなど礼儀正しい、見学や応援の決まりを守る、周りの人に親切であるなどが重要になってきます。決して勝敗だけではありません。

三豊・観音寺地区の夏季総合体育大会が始まりました。総体は、「勝つためよりも、一杯競い合って、スポーツを楽しむことに意義がある」のです。しっかり競って、しっかり楽しんで、そして相手に勝って、更に詫間中学校の良いイメージを与えてください。きっとみなさんにとって、最高の夏になると思います。

もちろん、普段の生活においても、地域の人々にも良いイメージを与えることができる、詫間中学校の一員としての自覚も持っていてください。あなたが詫間中学校のイメージを作り上げるのです。

「いのち輝いて」を聴いての感想

- ◆ 私は今日のお話を聞く前、めんどくさいなあと思っていました。でも、助産師さんになって3000人もの赤ちゃんを取り出したなんてすごいなあと思い、話が聞きたくなりました。いろんな話にとっても驚きました。一番大事なことは、子どもを授かるということは責任重大で、病気になるかもしれないという覚悟がほんとのほんとのできてからということでした。私はこれまであまり大変なことだと思っていませんでした。特に、赤ちゃんを産んでから胃ガンが見つかり、残されたのは抗ガン剤だけなのに、そのお母さんは亡くなるまでの3か月赤ちゃんに母乳をあげ続けたという話は、とても悲しい気持ちになりました。私は、お母さんやお父さんがいるのはとても幸せなことだなあと思いました。お母さんは親になる覚悟をして、一生懸命に私を産んでくれたんだと思いました。この一つしかない命を大切に、これからも生きていきたいです。
- ◆ 「いのち輝いて」を聴いて私が考えたことは、人の命はやっぱ重いということでした。これまでも「重い」ということは知っていたけれど、事例も交えて話してくださったので、とてもよくわかりました。一番印象に残ったのは、赤ちゃんを墮ろす時の話でした。初めて聞いたというのもあったけど、赤ちゃんを器具ですくうとき、赤ちゃんの顔が恐怖にゆがむというのは衝撃的でした。だから、まだ若いうちから軽々しく性交したり、赤ちゃんを墮ろしたりするのは、命をひどく無駄にしているんだと思いました。
- ◆ 僕は改めて命の重さというものを考えさせられ、教えられました。この世の中には快樂を求めてする人もいます。妊娠したくてもできない人もいるというのに、身勝手な行為で妊娠しては中絶するなど、命を何だと思っているのかと信じられませんでした。でも、自分の子どもに死ぬまで何かをしてやりたい、病気はどうだっていいというお母さんもいることを知り、とてもすごいと思いました。自分のことよりも他の人を優先するのは、たぶん僕にはできないと思います。僕はまだ運命の出会いとして親としか会っていません。僕はまだまだ生きることができます。その中で「覚悟」のない行動は絶対にしないと決めました。自分たちの将来をよくするために頑張っていきたいと思います。高橋先生、今日は本当にありがとうございました。
- ◆ 私は中学2年生です。高橋さんのお話を聞き、今、命についてのたくさんのお話を自分なりに考えています。今まで、私は命は大切なものなんだということをきちんと理解しているつもりでした。だから、母親や父親がいることも幸せに思っています。先生はパートナーに出会うときまでNoと言い続けたことを聞き、そして生まれてすぐ亡くなったり、3、4日間しか生きられなかったりした赤ちゃんの話を聞き、やっぱり「いのち」ってかけがえのない大切なものなんだと改めて考えさせられました。だからこそ、私が今、私でいられることは奇跡で、すっごくありがたく、幸せなことだなあと思いました。今、私は親に反抗したり、知らないうちに文句をたくさん言ったりしているかもしれませんが、でも、いつか「私を立派に育ててくれてありがとう」と、感謝の気持ちを伝えたいと思うことができました。私がいつかパートナーを見つけ、妊娠することがあったら、きっと今日のお話を思い出すんじゃないかなあと思っています。そのときは、命を大事にできる人間になっているといいなあと思います。本当にありがとうございました。
- ◆ 高橋さんの話を聞いて、好きな人同士だから何をやってもいいんだということは間違っている。ちゃんと親になる自覚がないといけないということを教えてくれました。男の人に誘われたら「うん」じゃなくて、「今、自分は覚悟ができてないからごめんなさい」など、ちゃんと断っていかないといけないんだなと思いました。お母さんが、どんなに痛くてつらい思いをして自分を産んでくれたのかがわかったような気がします。産むことによって、母親が亡くなったり、生まれてきた小さな子どもが亡くなったりしているなかで、自分たちは生きているんだから、このたった一つしかない命を守っていかないと改めてわかりました。口ではすごく怒る親も、大事に思っているから怒ってくれるんだなと思いました。今、ここに自分がいるということは、すごいことなんだなと思いました。高橋さんの話を聞いて、これからの生き方がわかったような気がします。これから先、何があるか自分でもわからないけど、男女交際もあせらずにしていけたらいいと思っています。
- ◆ 今日、「いのち輝いて」を聴いて思ったことが2つあります。1つ目は「命の大切さ」です。今までにもいろんな時間で命の大切さを教わってきたけど、改めて大切だと思いました。生まれてくるまでに大変な思いをして産んでくれた話を聞くと、胸に「グッ」ときました。日常生活で私たちは嫌な言葉を軽はずみに言うことがあります。それは産んでくれた親に悪いなあと思いました。2つ目は「感謝をすること」です。私はまだ「産んでくれてありがとう。お母さんとお父さんの子でよかった」と言ったことがありません。思うことはありますが、恥ずかしくてなかなか言えません。でも、言ってあげたいと思いました。この話を聞いて、もっと自分や相手のことを思って、言動や行動を考えたいと思いました。将来、私が母になったとき、生まれてくる喜びや命の大切さを教えてあげたいと思いました。
- ◆ 今日の話聞いて、命の大切さを知ることができました。話の中に余命3か月のお母さんの話がありました。ガンという悲しい結果になったにもかかわらず、自分の命より赤ちゃんの命を守るお母さんの姿に感動しました。「妻と2人で決めた答えは決して間違っはなかった」という言葉を聞いて、お母さんはすごい人だなと思いました。18歳の女の子が軽い気持ちでやって4人の子供を産むという話では、その女の子には覚悟という意味を知らず、親になるということを知らないでやった行為が赤ちゃんをとっても傷つけることになると思いました。私は今回高橋さんの話を聞いて、「覚悟」と「命」について改めて考え、感じるすることができました。私はこれからの人生、何かあったら高橋さんの話を思い出して、覚悟と命についてもう一度考えたいと思います。人間は生きるも死ぬも一回なので、私が今生きているこの時間を無駄にしないで生きていきたいです。